

# 手仕事の技

小野路のメカイ作り再発見



町田市教育委員会



### ● メカイのこと

メカイ（目籠）は東日本の低山や里山を中心に自生する篠竹（アズマネザサ）を材料に作られる小型のカゴです。かつて町田市域の農家では、農作業や炊事など日用品として作られるとともに、商品としても作られています。

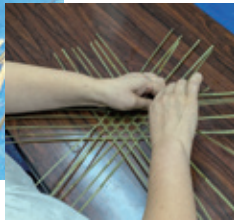
町田市を含む南多摩地域では、江戸時代後期から冬の農閑期における貴重な収入源としてメカイ作り



がおこなわれていました。『東京府南多摩郡農会史』（一九一四年）によると、明治時代末には南多摩郡内で約五十万個のメカイが生産されたと記録されています。町田市域には八王子や多摩からメカイ作りの技術が伝わり、大正時代初期には小野路地区を中心とする鶴川村の五十軒あまりの家でメカイが作られていました。南多摩地域のメカイは、西は京阪地域から北は北海道へ販路が広がっていたといわれています。

しかし一九五〇年代に入り、安価で大量生産可能なプラスチックや金属製のザルやカゴが普及し

たため、生活様式の変化とともにメカイの作り手は次第に減少していきました。メカイ作りの技術が失われることを憂慮した小野路の萩生田長吉氏は、メカイ作りの歴史や作り方を伝える講座を開き、『多摩のめかい』（一九七七年）という著書を残しました。この著書は、今では多摩のメカイ作りの基本資料として作り手たちに受け継がれています。



萩生田長吉『多摩のめかい』  
1977年（私家版）

# メカイ作りの道具



- ①押切り／②前掛け／③竹割鉋／④⑤⑥鋸／⑥ハンマー／⑦竹割用具  
 ⑧ニッパー／⑨はさみ／⑩砥石／⑪ビニール紐／⑫彫刻刀／⑬剪定ばさみ  
 ⑭メカイ包丁／⑮軍手／⑰太枝切ばさみ（すべて個人蔵）

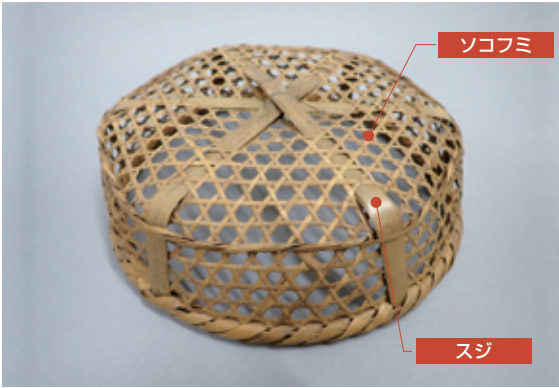
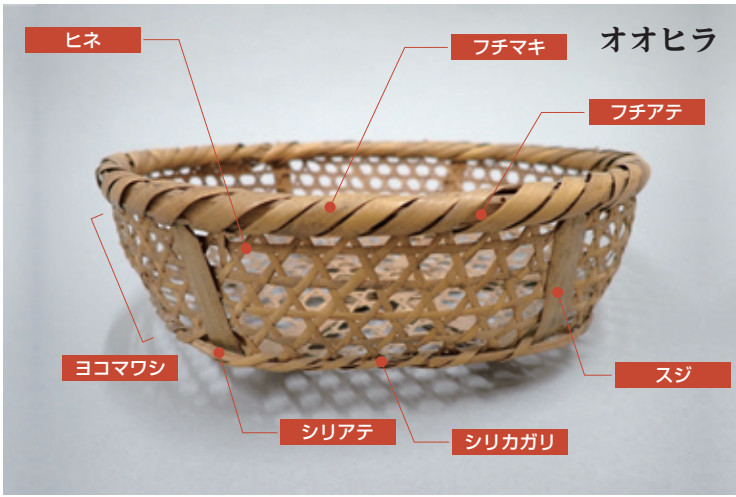


メカイ包丁（個人蔵）

刃元部分に、原町田にあったヒョウタン鍛冶と呼ばれた乞田鍛冶屋のものと思われるヒョウタン印が見られる。

メカイ包丁は刃渡り約一〇cmの小刀で、刃の上部に特徴的な突起（ツノ）があります。この突起を使って編み目や縁を巻き締める作業をおこないます。メカイ作りの主な担い手であった女性が他地域へ嫁ぐなど、メカイ作りの技術やメカイ包丁といった道具が他の地域へと広がっていきました。現在ではメカイ包丁に加えて、作り手自身が工夫した道具を使いメカイを作っています。

## ● メカイの部分名称



## ● 主なメカイの種類

### ● オオヒラ

底面の直径が約十九・五cmで、家庭用として作られるほか料理屋などへ出荷するために作られました。

### ● ジョウメズ

底面の直径が約二十二cmの大サイズに、中・小サイズが入れ子状になった三つセットで、主に家庭用として作られました。

### ● コバシラ

ジョウメズよりも深さがあり、主に料理屋などへ出荷するために作られました。



メカイの各名称は多くの場合口頭で伝えられてきたため、南多摩地域の中でも呼び方が異なります。ここでは町田市域特有の呼び方を、民俗語彙としてカタカナで表記しています。

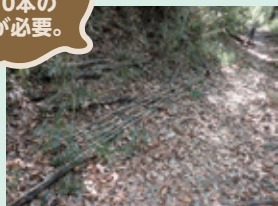
# メカイを作る

南多摩地域のメカイ作りには、次の三つの特徴があります。①メカイ包丁を使うこと、②特定の職人によるものではなく誰でも日常生活の中で作れること、③篠竹を乾燥させずに青竹のまま使用することです。

## 1 材料の準備

山での篠採りからはじまり、ヒネ（篠竹を割り、篠竹の表皮部分と白い肉部分を剥ぎ分けたもの）作りが、メカイの出来を左右する重要な作業になります。採取する篠竹の太さの見極めや、メカイ包丁など道具の使い方には熟練の技が必要です。

オオヒラのメカイを1つ作るためには、8~10本の篠竹が必要。



①篠採り：メカイの材料となる篠竹を採取します。

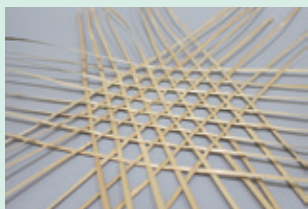


②篠割り：篠竹を太さに応じて四つ割り、六つ割り、八つ割りなどにします。



③ヒネヘギ：ヒネを作ります。「ヘグ」は皮を剥ぐという意味の方言です。

## 2 編み方



①ソコフミ：ヒネを編んで籠目を作り、メカイの底面を作ります。



②ヨコマワシ：メカイの側面を編みあげます。



③フチマキ：メカイの縁部分を作ります。



④スジイレ：フチマキが完成したら、補強のためにマダケかモウソウチクなどで作ったスジを差し込みます。



完成！

## メカイの民俗風習

十二月八日と二月八日は「ヨウカゾウ」といい、夜になると一ツ目小僧が家に来るといわれていました。この一ツ目小僧は屋外に置いてある履き物にいたずらをし、いたずらされた履き物を履くと疫病にかかるといわれていたのです。一ツ目小僧を追い払うためにメカイやザルなどを玄関につるしたり、棒で立てたりする風習がありました。一ツ目小僧は自分よりも目がたくさんあるメカイやザルを見て、驚いて逃げていくといわれていました。



町田市広袴町のヨウカゾウ  
(撮影 佐藤高氏)

## メカイの作り手たちの今

メカイ製作技術の継承とその作り手たちの育成およびメカイの普及を目的に、「小野路のめかい 篠・竹細工伝統技能保存会」が町田市内で活動しています。萩生田長吉氏に師事した立川英治会長を中心に、山での篠採りから編み方までの一連の技術習得を目指し、メカイ作りの技術を次世代に受け継ぎ伝統文化を守り続けています。





手仕事の技―小野路のメカイ作り再発見―展解説冊子

発行日 二〇二六年一月十九日

編集・発行 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習総務課歴史資源担当

〒一九四―八五二〇 東京都町田市森野二―二―二二

電話 〇四二―七二四―二五五四

(担当：佐久間かおる)

協力 小野路のめかい篠・竹細工伝統技能保存会

刊行物番号 二五―二七

印刷 株式会社オフィスエンズ

この冊子は八〇〇部作成し、一部あたり単価は二五四円です(職員人件費を含みます)。